

京都薬科大学大学院「腫瘍薬剤学特論」公開講義のご案内

2015年5月13日
京都薬科大学臨床薬学教育研究センター

本年度京都薬科大学大学院で開講する「腫瘍薬剤学特論」では、下記のとおり学外から3名の講師をお招きし、がん治療に関わるそれぞれの専門的観点からの講演をしていただきます。製薬企業におけるがん疼痛緩和薬の開発、医師によるがん治療、看護師による患者QOL評価、といったさまざまな職種から見たがん治療と患者ケアに関する最新の研究について解説いただき、また薬剤師に期待することについてもお話いただけることと思います。大学院生のみならず学部学生のみならずにもぜひ聴講していただきたく公開講義としました。事前登録は不要です。

皆様のご参加をお待ち申し上げます。**場所はすべて京都薬科大学愛学館 A21 講義室**です。

記

第1回 「がん疼痛緩和薬の臨床開発の実際（仮題）」

2015年6月26日(金) 15:15~16:45

塩野義製薬株式会社経営戦略本部 石原安信 先生

June 26: Dr. Yasunobu Ishihara, from Shionogi & Co. Ltd.,
"Clinical development of an opioid, oxycodone for cancer pain."

現在、がん疼痛緩和に用いられているオキシコドン開発を事例に、医薬品開発戦略あるいは臨床試験の計画とその進め方などについての実例を紹介していただきます。オピオイドを開発する過程ではさまざまな問題が発生し開発プロジェクトの中でどのように問題を解決するかといったことを学びます。さらに、オピオイドに対する誤解、乱用あるいはオピオイドの副作用への取り組みなども紹介していただきます。

第2回 「がん治療およびがん化学療法の最近の事例（仮題）」

2015年7月3日(金) 13:30~15:00

京都府立医科大学女性生涯医科学教室 黒星晴夫 先生

July 3: Dr. Haruo Kuroboshi, from Kyoto Prefectural University of Medicine,
"Recent topics of cancer therapy and chemotherapy in gynecology Area"

婦人科領域での診療、診察を日々行っておられる医師をお招きし、特にこの領域でのがん治療およびがん化学療法についての最近の事例を紹介していただきます。また、医師からみた医療現場での薬剤師としての関与のあり方、薬剤師に期待することについてもお話いただきます。

第3回 「がん治療およびがん化学療法におけるQOL評価（仮題）」

2015年7月10日(金) 13:30~15:00

京都大学医学部非常勤講師、奈良県立医科大学非常勤講師 宮崎貴久子 先生

July 10: Dr. Kikuko Miyazaki,
"Recent topics of QOL evaluation in palliative care for cancer patients."

がん治療においては、治療効果だけでなく副作用マネジメントやがん疼痛緩和といった患者の生活の質(QOL)を考慮する必要があります。患者QOLにはさまざまな要因が関与し、また客観的に評価することが難しい指標ですが、患者QOL評価のための臨床研究の実例を紹介していただき、ファーマシューティカルケアのあり方について学びます。

以上

お問い合わせ先：京都薬科大学臨床薬学教育研究センター 矢野義孝（075-595-4651）
本特論は、「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン事業」の一環として実施しています。